

第 1 回木津川上流部会（2005.4.20 開催）結果報告		2005.5.10 庶務発信
開催日時：	2005 年 4 月 20 日（水）13：30～16：35	
場 所：	名張シティホテル 3 階 天平・白鳳の間	
参加者数：	委員 11 名（うち 3 名は他部会委員）、河川管理者（指定席）19 名、一般傍聴者 111 名	
<p>1．決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の運営方法や課題等は、河川管理者も閲覧できる委員によるメーリングリスト等を利用して意見交換しながら検討していく。</li> </ul> <p>2．報告の概要</p> <p>第 43 回運営会議結果報告、テーマ別部会の委員構成について</p> <p>庶務より、報告資料 1「第 43 回運営会議結果報告」、報告資料 2-1「部会委員構成一覧表」、報告資料 2-2「部会の委員名簿」を用いて報告がなされた。</p> <p>3．審議の概要</p> <p>委員会の目的・任務と木津川上流部会の役割の確認、部会の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域部会の固有の問題については、他部会と調整して審議を進めて、委員会で検討・承認するのがよいと思っている。木津川上流部会では、せめて三川合流地点までを検討範囲にしたい。</li> <li>・流域委員会では、水系全体を重視して議論してきた。水系全体を視野に入れて考えるべきだ。</li> <li>・任期 2 年間の到達目標を委員の共通認識にしておいた方がよい。川上ダムの利水は下流域全体に関わる。流域全体で考えるとともに、地域固有の問題についても検討することが大切だ。</li> <li>・事業の進捗点検では、何をどこまで評価するのか。その結果を今後の河川マネジメントにどのようにフィードバックしていくのか。ある程度統一した見解が必要だ。</li> </ul> <p>河川整備計画基礎案に基づく事業進捗状況の点検について</p> <p>河川管理者より、審議資料 1「河川整備計画進捗状況項目（実施）（調査・検討）」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「調査・検討項目」は、単なる情報収集段階なのか。それとも、すでに効果を確認しながら試行的な実施がなされていて、効果があれば本格的な実施に移行するという段階なのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「調査・検討」には幅がある。基礎的な調査もあれば、試行的な実施もある（河川管理者）。</li> <li>基礎的な調査・検討と試験運用（アダプティブマネジメント）は区別した方がよい。アダプティブマネジメント的な試行では、モニター結果と効果が確認でき、その結果が事業にどのように反映されるのかが確認できる物差しがあればよい。例えば、魚道であれば、どのように検証してモニターするのか、専門的な観点から意見が述べられる方法があればよい。</li> <li>河川管理者には、事業の評価の方法やその反映の仕方、コストまで含めた時間管理の方法を対象事業の種類毎に出してもらった必要がある。例えば、生物多様性の 1 年間の試行結果によって、調査検討の期間を延ばすのか延ばさないのか、どの程度のコストと効果があったのかといった情報をどのように提供するのか。河川管理者には整理してほしい。</li> </ul> </li> <li>・環境や土砂に関する研究会等があるが、二重に管理している状態で無駄な面もあるのではないかと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>流域委員会では、現地に即した細々としたことにまで意見を言うのは難しいため、現地の方や専門家を交えて検討会や研究会を組織している。ここでの意見交換を踏まえて河川管理者が考えたことを流域委員会に報告するので、ご意見をもらいたい（河川管理者）。</li> </ul> </li> <li>・環境 22 の魚道について、河川環境研究会でどのような検討をしているのか、説明してもらってはどうかと考えている。内容については河川管理者と協議する（部会長）。</li> </ul> <p>前期委員会からの検討経過報告の確認</p> <p>部会長より、審議資料 2-1～3「木津川上流の課題について」等は、次回以降の部会で河川管理者より説明して頂き、議論をするとの説明がなされた。</p> <p>木津川上流部会の課題について：主な意見は以下の通り（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・討議や議論は、全体委員会でやる。地域別部会とテーマ別部会では、全体委員会での議論が円滑にい</li> </ul>		

くように課題を整理し、問題提起をして頂きたい。それを基本としながらも、整備内容シートに記載されている地域的な特性のある事業等について議論・整理してもらい、全体委員会に報告をして頂きたいと考えている（委員長）。

- ・木津川上流だけが切り離され、木津川上流部会ができた理由について説明して頂きたい。  
前期委員会から「次期委員会の体制は事業進捗点検が主たる任務なので、事務所単位の4部会がよい」という意見を頂き、4部会の設置を委員会に依頼した。相互に関係する事項は、合同部会や委員会等々の工夫をすればよいと考えている（河川管理者）。
- ・ダムについては、地域部会として決を採ることはないだろうが、きっちり議論して頂きたい。
- ・治水に関しては、委員会と河川管理者で意見が違っている。遊水地、岩倉狭の流下能力等については十分な議論が尽くされたとは言えない。傍聴者の関心も高い。部会での検討は避けられない方がよい。
- ・地域別部会で水系全体に関する問題（水質、流量管理等）について検討するのは難しい。意志決定に一番近い枠組みの中で議論し、必要なものだけが委員会に反映されるという流れが大切だ。  
ワーキンググループ設置の必要性について：WGに関する主な提案は以下の通り（例示）
- ・住民を巻き込んだ事業進捗点検項目の評価システムを考えるのは大切だが、WGで議論するのはどうか。まずは委員がたたき台を作って有志で検討してもらおう等、委員主導の試行錯誤が必要だ。
- ・地域別部会の議論のたたき台を検討する小グループがあってもよいのではないかと。  
木津川は委員数も少ないので部会で議論すればよい。たたき台は部会長・副部会長と庶務が考えればよい。

議論のたたき台は、委員が作成するべきで、委員によるメーリングで意見交換すればよい。

#### 4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者3名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・河川管理者は「調査・検討の間は地元の地域生活に必要な工事や防災上必要な工事以外はしない」としているが、水資源機構は、ダム貯水池の西側の付け替え道路工事に着手。他にも、右岸ダム本体取り付け斜面の森林開発、原石の一次破碎、バッチャープラント用の敷地造成、2カ所の架橋、伊賀市事業「ハーモニーフォレスト計画」が進んでいる。これらがオオタカの餌場を潰し、営巣を邪魔している。委員は水資源機構に工事をやめるよう箴言し、現地視察で現状を見て頂きたい。  
生活に必要な道路、防災上特に途中で止めることができない道路として、付け替え県道工事を実施している。この工事によって発生する土を貯水池予定地に仮置きをする事業は進めている。ポーリングは、河川管理者ではないのでコメントしない。ダムサイト近辺での森林伐採は、委員会が発足する以前に事業用地として買収した用地もあるが、森林の所有者が計画的に伐採しているということはあるだろう（河川管理者）。
- ・旧青山町の町から5 kmの場所の住民だが、台風シーズンには道路が水路に変わる。こんなことでは、過疎が進むばかりだ。ダム完成に伴う道路をできるだけ早くつけてほしい。猛禽類の保護について意見が出ていたが、猛禽類以外の自然環境も大事だと思っている。
- ・川上ダムを不要としている論文（浅野論文）について、ダムWGのリーダーは「この論文のようにはいかない」と述べたが、その科学的根拠を出して頂きたい。利水については「水政策の転換の方向」と『近い水』対『遠い水』という論文（元岡山大学 森滝健一郎氏）に目を通して頂きたい。生態については、オオタカやオオサンショウウオに関する研究の成果が発表されていないので出してほしい。ダムが計画された際には生態学的な検討は全くなされていない。国も研究者もあらためて検討をしなければならない。本当に50年先にダムが必要なのかどうかという点から議論をしたい。
- ・アンケートを持ってきたので、ご協力を願いたい。地元を考慮して名張で開催されたのだと思うが、ご意見を頂ければと思っている。本日は、ダムを気にかけてこの会場に来た一般の方も多いと思うが、部会の中でダムについて触れられなかったのは残念。住民の心にも答えるということも必要だ。

このお知らせは委員の皆様にも主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。